

4 基本的な対応

緊急の学年会を開き、いじめ問題の経過について報告するとともに、学年間でその対応について話し合いを持ち、次のような指導援助を行うことにしました。

- (1) Y男の側に立って気持ちを共感的に理解し、Y男をしっかり支える。
- (2) いじめっ子のN男からも事実関係を確認する。また、N男の不満や不安定な心の訴えも十分に聞いて、内面に目を向けた指導をする。

- (3) Y男への迅速、適切な援助を行い、両親の不安、不信を取り除き、連携を密にする。
- (4) N男の両親に事実を知らせ、適切に指導するよう助言し、連携を密にする。
- (5) 学級内では、傍観者等をつくらなため指導を行う。
- (6) 他の学級の先生はY男やN男に対して、積極的に温かい支援をする。

5 指導援助の実際

Y男への指導援助	Y男の家庭に対して
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「そう、そんなこともあったのか。Y男君はうんとかまんしていたんだね」と、話を聞きながら、うなずいたり、復唱したり受容的に接し、安心感を与えて、Y男の心をほぐしていった。 (Y男は少しずつ、今までのことを話してくれた。) ○ 前年度まで担任をしていた教師からはY男への声かけを行った。 (Y男はにこやかに応え、うれしそうだった) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 母親の思いを十分に聞くとともに、打ち明けることもできなかったY男の気持ちを伝え、Y男を支えて自信をつける対応について助言した。家庭訪問を繰り返して、両親の協力を依頼した。 (「子どもが先生方みんなに声をかけていただいている。すこし安心した」と母親が話していたということを他の父兄から聞く)

N男への指導援助	N男の家庭に対して
<ul style="list-style-type: none"> ○ N男の弁解を否定することなく聞くことに心掛けた。 (事実について話してくれたし、N男の劣等意識や背景を理解できた) ○ 「N男君は元気にあいさつしてくれるので気持ちがさわやかになると、○○先生が話したことを帰りの学活の時に話題をあげた。 (みんなに認められ、てれくさそうな様子が見える) ○ 3回目の個別相談の時は、相手を思いやる心を育てる意味で「あの時、N男君はどんな気持ちだった」と 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 母親から、N男と二人でY男の家に訪問したことの報告を受けた。 ○ N男の内面に目を向けてみることに話題を置き、母親の思いを十分に受容しながら話し合った。 (母親は元気を取り戻し、N男のことをもっと考えてやらなくてはという気持ちになっている) ○ 父親には、N男の心の安定を図るために